

附属小 研究だより



研究主題

学びをたのしみ自律共創する子ども

ご挨拶

本校では、令和元年に、「粘り強くともに学ぶ子どもの育成」を主題とし、子どもたちが主体的に課題解決に取り組む中で、友達とともに各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら深い学びを生み出すための手立てを探ってきました。成果としては、学習指導に生かす評価の在り方についての全体像を明らかにできました。一方で、各教科等特有の評価の工夫等についてはまだ研究の余地があります。

そこで、本年度は確かな教材研究と子どもたちの見取りを授業実践の両輪として捉えることを基本として、今まで当たり前に行われてきた教師の営みや子どもたちの行為・行動をもう一度「学びをたのしむ」という視点で問い直し、新たな学びの在り方を探ろうと考えています。

主題を「学びをたのしみ自律共創する子ども」として、研究を深めていくつもりです。その研究の一端を夏の実践研修会及び研究発表会でお示しできればと考えています。開催形式等について改めてご案内させていただきます。ぜひ、多くの方々にご参加いただき、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 中野 浩幸

夏の実践研修会のご案内

期 日 令和4年8月18日(木) 12:15~16:40

開催形式 オンライン (Zoom)

内 容 ・シンポジウム
・各教科等授業作りセミナー



全体会講師 京都大学 准教授 石井 英真 先生

【日程 8月18日】

12:15 12:45 13:25 13:35 14:20 14:30 15:15 15:25 16:25 16:40

Zoom 受付	オリエンテーション・ シンポジウム	休憩 (移動)	各教科等授業作りセミナー (ユニット1)	休憩 (移動)	各教科等授業作りセミナー (ユニット2)	休憩 (移動)	全体講演	閉会 行事
------------	----------------------	------------	-------------------------	------------	-------------------------	------------	------	----------

申し込み 参加費は無料。

Webにて受付を行っています。右記のQRコードから
本校ホームページにある申込フォームをご覧ください。



申し込み切 令和4年8月17日(水)

※天候、感染症等により、開催に関する変更がある場合は、本校HP等にてお知らせいたします。

後援 熊本県教育委員会
熊本市教育委員会

令和4年度 研究発表会のご案内

期 日 令和5年2月18日(土)

全体会講師 香川大学 准教授 岡田 涼 先生



著書

『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』（金子書房）

『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』（北大路書房）

『教師として考えつづけるための教育心理学』（ナカニシヤ出版）

『子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践』（福村出版）

附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ続々登場!!

● 授業研究最前線

臨場感あふれる各教科の取り組みを随時更新します。

● 実践・研究ブログ

校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。



©2010熊本県くまモン

ホームページ

<https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp>

熊大附属小

検索

研修会・講師に関する お問い合わせ先

校内研修や研究会の講師として本校教員をお考えの際は、電話か次のアドレスにお問い合わせ下さい。



gmurakami@educ.kumamoto-u.ac.jp

(教頭 村上剛史)

教科等研究紹介

学びをたのしみ自律

共創する子ども

研究部長 溝上 剛道



1 子どもにとっての「学び」を問い直す

砂場で山を作っている子どもがいます。途中である子がトンネルを掘り出しますが、山が崩れてしまいました。なぜだろう。どうすれば崩さずにできるだろう。子どもたちの中に問いが立ち上がります。すると近くで泥団子を作っていた子も加わり、もう少し深く掘ろうというアイデアが出されました。試行錯誤の末見事トンネルができると、今度はそこに泥団子を転がし始め…子どもたちは遊びに没頭する中で、他者とかかわりながら対象世界を豊かに広げ、新たなものを創り出していきます。このような「発見と創造」の過程にこそ、学びの本質を見て取ることができます。

本校ではこれまで「粘り強くともに学ぶ子どもの育成」を主題として、主体的に課題解決に取り組む中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びを生み出す授業を目指してきました。本年度はそれらを土台としながら、さらに「学びをたのしむ」という視点で授業の在り方を問い直していこうと考えています。

2 「学びをたのしみ自律共創する子ども」を育てるために、授業の在り方を問い直す

「学びをたのしみ自律共創する子ども」とは、ある対象との出会いによって生まれた問いや思いを基に、主体的にその対象にかかわる中で、他者とともに新たなものを創り出し、その過程を自覚しながら永続的に遂行しようとする姿と考えます。そのような子どもを育てるために、次の視点から授業の在り方を問い直し、各教科等で実践提案を行っていきます。

- 子どもの問いや思いに根ざした「各教科等の本質」に迫る活動のデザインとは？
- 他者とともに新たなものを創り出していく「対話」の在り方とは？

特別の教科・道徳

自己のよりよい生き方を追求する姿を目指して



山平 恵太

昨年度「二わのことり」で行った実践では、みそざいがやまがらの家に行く判断をした場面で「友達だから行くこともあるけど、やまがらの立場で考えると寂しい気持ちになる」と友情について多面的・多角的に捉え「自分だったら」と自分に重ねて考える姿が見られました。

本校道徳科は、子どもが価値について自分事として考え、自分のよりよい生き方を追求し続ける姿を目指します。子ども自身が、なりたい自分の姿をイメージし、学びの過程で今までの自分を振り返ることで、価値がより自分事になっていきます。自分の変容をたのしみながら、これからの生き方を追求する姿を提案します。



国語科

意味の創造へと向かう「切実な問い」とは



溝上 剛道



木下 忠志

6年「海の命」で、自分が選んだ活動に取り組みながら作品のたのしみ方を広げていった子どもたち。その中で「海に生きる」と「海に帰る」、「村一番」と「一人前」等の言葉に立ち止まりながら問いを見いだし、対話を通して考えを広げ深めていく姿が生まれました。言葉への自覚が高まる時、その問いはより切実なものとなり、問いの解決が自分なりの意味を創り出すことに繋がっていったのです。

そのような学びを生み出すために、学びがいのある言語活動を核として一人一人が「切実な問い」を見だしていく単元デザインと、言葉による見方・考え方を働かせながら自分の考えを広げ深める対話の手立てを提案します。



生活科

「個」と「集団」の学びが豊かに往還する生活科の授業づくり



坂口 静磨

第2学年「さぐろう！わたしのカイコのひみつ」の学習では、『くらべる昆虫図鑑』という表現活動に取り組んだ子どもたち。一人一人が「昆虫の謎を探りたい」という思いの実現に向けて個別に追究していく中で、言葉等で気付きを表現するために繰り返し対象へ関わっていく姿や、他者と協働しながら問題を解決していく姿が見られました。

本校生活科では、繰り返し対象に関わる姿を生み出すために表現活動の充実を図るとともに、「個」と「集団」の学びが豊かに往還するための他者とのかわり合いを生み出す手立てを探っていきます。そして、体験活動と表現活動を繰り返す中で、気付きの質が高まる姿を目指します。



外国語活動・外国語

外国語学習における「個別最適な学びの姿」とは



高田 実里



北森 麻衣子

「手紙に“I like meat.”って書いていたから、私のおすすめ焼き肉屋さんを紹介しようかな。」受け取ったオレゴンの小学生からの手紙に、相手の好みや目的に応じて、内容を考え、返事を書こうとする子どもたち。既習表現である“it's ~”を使って熊本のよさを伝えようとする子、「将来、熊本で会おう。」はどう表現するとよいか考えている子等、個々に課題をもち、学びを進める姿がありました。

今年度は、個の課題意識を振り返りや活動の様子から見取り、他者との協働が個の学びに還る過程に焦点を当てたいと考えています。そのような学びを促進する学習環境や教師のかかわりの在り方について研究を進めていきます。



社会科

子どもが自ら社会とかかわり続ける姿を目指して



村上 春樹



白石 和真

6年「大陸に学んだ国づくり」で、資料館に置いてもらえるような歴史の本づくりに取り組んでいった子どもたち。その中で、「藤原氏の摂関政治の時代は他の時代に比べて貴族の争いごとが少ないから文化が発展した。クラスも仲がよいと遊びも楽しい。平和を大切にしたい。」と時間的・相互関係的な見方を働かせながら、今とのつながりを見出し、考えを深める姿が見られました。

本校社会科では、自ら社会的事象に立ち止まり、友達や対象とかかわりながら、自分の学びを省察することを通して、社会とかかわり方を深めていくための単元構成の工夫を行っています。本年度は、子どもたちが対象と自分とのつながりを見出しながら学びを深めていく姿を提案します。



音楽科

遊び心を養い、音楽表現を追求する子どもを目指して



中島 千晴



上原 正士

友だちの感じ方を知りたい、一緒につくりたい…音楽づくりにおいて子どもたちが自然とそのような思いを抱き、動き出すには、どのような手立てが必要でしょうか。本校音楽科が注目しているのは、魅力的な教材を開発すること、その出会い方を工夫すること、子どもたちが自然と動き出すような場・環境を整えること、適切な活動の枠組みを設定することです。題材全体を通じてこのような手立てを講じることで、子どもたち一人一人が協働しながら粘り強く音楽表現を追求する授業を目指します。特に、子どもたちがのびのびと音に触れ遊び心を発揮しながら試行錯誤するための手立てを明らかにしたいと考えています。



総合的な学習の時間

「よりよい解決に向けて自ら探究していく姿」を目指して



竹下 太佑

今、総合的な学習の時間では、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、地域の人、社会、自然と関わりながら、新たな課題を生み出し、自己の生き方を問い続ける学びが求められています。

本校の総合的な学習の時間では、立場の異なる複数の人と関わる場を単元の中に位置づけることで、1つの問題について多様な見方で考え、よりよい解決策や自分なりの納得解を見だしていく子どもを目指していきます。その問題解決の過程において、子ども自ら課題を生み出していくための事象との出会いの場の工夫や他者との関わり合いを生み出していくための手立てを探っていきます。



算数科

自ら「数学的」に探究する子どもたちを目指して



東野 臣祐



内田 武瑠

4年「角の大きさ」において、子どもたちは、任意単位だと表せない角があることに気付き、「どうすれば『あとちょっと』を測ることができるのか」と問いをもちました。そして、開いている辺と辺の間の長さを測る、小さい角のいくつ分かで調べるなどの方法を考え、その有効性を実際に試しながら探究し、普遍単位の必要性に気付きました。

本校算数科では、数学を探究する価値や喜びを実感しながら、自ら見いだした問いや思いを基に学びを進める子どもの姿を大切にします。そのために、問いを生む問題場面の開発と単元構成の在り方、対話を通して課題解決に向かうための手立てについて研究を進めてまいります。



図画工作科

自分なりに新しい見方や感じ方を広げる子どもの姿を求めて



田中 滉平

2年生で春のスケッチをした際、一人一枚の画用紙に描くのではなく背面掲示を使ってみんなで一つの作品をつくりだしました。実際に掲示をすると、虫と花の大きさのバランスや紙の余白の存在に違和感を抱き、どうしたらもっとよくなるのかを子ども同士で対話しながらつくりかえていました。「つくり、つくりかえる」という学習過程において、子どもが新たな発想を思い付いたり創造的な技能を発揮して工夫したりしました。

そこで本年度は、つくりかえるという過程を重視した題材構成の工夫や、新たな見方や感じ方を見出していくための対話の手立てについて研究を進めていきます。



保健・健康教育

学びを行動変容につなげる子どもを目指して



村上 朋美

健康であることについての知識はあっても、自分の生活と健康とを意識的に結びつけて考える子どもは多くありません。生涯にわたって健康を保持増進していくためには、心身の健康に関心をもち、習得した知識を活用しながら、自己の生活に生かしていく力が必要であると考えます。

本校の保健・健康教育では、子どもたちが、自分の健康課題やよさに目を向け、他者とかかわり合いを通して、健康に過ごすことの価値を見いだす学びを大切にしています。そのような学びを通して、それぞれの生活状況に合わせ、自分の行動を調整しながら、学びを行動変容につなげることのできる保健教育の在り方を提案します。



理科

子どもが自然事象に関わり続ける姿を目指して



牛嶋 克宏



赤星 愛



柿原 智明

5年「流れる水のはたらし」において、白川の洪水を防ぐための防災計画をつくりました。対策を考える中で、流域全体にも目を向けて「上流で削られた土砂が堆積して、川底が浅くなると洪水が起こるから取り除いた方がよい」という時間的・空間的な見方を働かせて、考えを深める姿が見られました。子どもたちは、河川を維持管理する技術者の文脈を辿りながら問題をみんなで解決していききました。

本校理科では、単元構成を工夫し、観察、実験を自ら計画、実施しながら、科学者や技術者が辿る文脈を追体験できるようにしています。子どもたち一人一人が追究に没入し、自然事象に関わり続ける姿を目指していきます。



体育科

運動に関わり続ける姿を目指して



磨田 慎太郎



是住 直人



西 沙織

5年「セレクトベースボール」の学習において、ランナー3塁の時にホームの1点を防ぐのか、諦めて次のランナーの進塁を防ぐべきなのか迷う姿が見られました。子どもたちはランナーやボールの位置などを状況判断の材料とし、自分たちに合った守り方を見つけていきました。

本校体育科では、子ども自身が発見した動きや作戦を試す中で自分やチームのことを捉え直していく過程を大切にしています。そのような運動に関わり続ける姿を目指して動きや作戦を試しやすいゲームを設定するとともに、子どもが動きや作戦を振り返り、その意味を問い直したり更新したりできる環境について研究を進めてまいります。



栄養・食育

食をたのしみ、よりよい食生活を実現しようとする子どもを目指して



松尾 夕貴

みそ汁の飲み比べを通して、だしによって味が異なることに気付いた子どもたち。「おうちや給食のだしは何か」と目の前の食事を「だし」という視点でも見るようになりました。そして、今まで無意識に食べていた食事を味わい、だしを変えたり組み合わせたりして味の違いをたのしむ姿につながっていきました。

本校食育では、自分の課題やよさと向き合い、学びや気付きを日頃の食生活に生かして試行錯誤を積み重ねることができる子どもの姿を目指します。食に関する学習内容を意図的に配置し、学習と生活をつなぐことで子どもが食をたのしみ、よりよくしたくなる食育の在り方を提案します。

